

別紙資料 1－IV－①

平成19年6月11日開催の

委員懇談会における山口委員の発言内容

平成19年6月11日開催の委員懇談会における山口委員の発言内容

*この発言内容は、議事の録音ファイルから事務局で文字起こししたものである。

発言者	発言内容
山口委員	後は、次は230ページのところ。230ページの上から3行目の「しかし」から、その7行目。それから8行目から、「もし」「もし」が2つ入ってんだけど、これ前回、「もし」「もし」は、これカットじゃなかったかな。これは、後出しじゃんけんですね、これ、何とか科学的分析でないなというふうに前日も言ったんですけど。もし、何とかあれば、事故が起きなかつたら、だったら、まあ土佐くろしおも、倒れたけど手上げてボタン押しとけば、あの運転士さんも事故にならなかつたらというようにもなるんで。まあ上は、上はね、最初のやつは、これは、まあ、その、当然そういう考えた人が、西日本にいなかったのは残念ですけど、そういう、カーブが急になったら、600が300になったらやばいってのは考え、120から70ってのはちょっと怖いっていうのは、考える人が居てもよかつたかなというのは思いますけど。下の2つは、「もし」「もし」ではちょっと、何か、こう、あの、分析になってないなっていう感じがしたんですけどね。まあ、そこで、西は、まあ、当然、まあ、優先的にやるべきであったと。だけど、まあ、その当時、そんな、鉄道に居た人とかも考えてなかつたでしょうけど、まあ、当然考えると、鉄道屋として考えるべき内容だったとは思いますが。だから、これも。
A（事務局）	いや、この部分も、あの、まあ、事故の原因にしてないんで。まあ、そのころ、何か、と言ったらあれですけど。何か、付いてれば防げたんだよということを書いておかないと、何か、何も、全く何でもなかつたんですよというふうに取りられるのも良くないかなと思って、この部分は書いておいた方がいいんじゃないかなというふうに。
宮本委員	私も、その評価は重要な気がするけれども。やんなかつたけども、どっちみち大したことじゃなかつたんだよねと言うのか、有ればそれなりに影響したということなのか、という判断はやっぱり有ったほうがいいのかなど。
B委員	そうすると、この段落の前半部分というのが。
（発言者不明）	（発言が重なっており不明）
B委員	「もし」が二つあって、曲線速照機能の話と分岐速照機能の話がありますよね。今回の事故が防げたのは、前半が付いていればということ。
A（事務局）	後半もです。
B委員	後半もですか。
A（事務局）	後半で言うと、宝塚の時にああいうふうにならなかつたら、伊丹のオーバーランも無くてというような主旨。
B委員	あ～、そういうことか。
C委員	まあ、ここは解析ですから、いいんじゃないでしょうか。これが付いていた方が、僕はいんじゃないかと思えます。まあ、文章的に言ったら、下の後の「もし」は、要らないかもしれない、「また」の後の「もし」は。だから両方、「また」「もし」になっていますので、P分岐速照機能の前の「もし」は、要らない。
B委員	後ろの「また」は、「さらに」とか何か。
A（事務局）	真ん中の「また」は、何にしましょうか。
（発言者不明）	とりあえずこれで、後で考えましょう。
山口委員	次に239ページでございますが、（以下、別の議論が続く）